

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社 評価基準研究所

② 施設・事業所情報

名称：木下の保育園 山下町	種別：認可保育所	
代表者氏名：難波江 美智代	定員（利用人数）： 50 名	
所在地：神奈川県横浜市中区山下町112-11		
TEL：045-681-5583	ホームページ：https://www.kinoshita-hoiku.com/facility/yamashitacho	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2012年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社 木下の保育		
職員数	常勤職員： 12 名 非常勤職員： 複数名	
専門職員	保育士 常勤9名 非常勤複数名	栄養士 常勤1名
	看護師 常勤1名	
施設・設備の概要	乳児室、1歳児室、2・3歳児室、4・5歳児室	厨房、トイレ、園外遊技場（テラス）
	事務室、医務室	設備：冷暖房

③ 理念・基本方針

保育理念 “生きる力を創る”

保育方針

- ・協調性を持ち、他者を尊重し認め合う心を育てる
- ・のびのびと自己表現ができる環境を提供する
- ・試行錯誤をする中で考え創造し、自分で判断する力を養う
- ・探索活動を大切にし、こどもの興味や関心に寄り添う

④施設・事業所の特徴的な取組

山下公園や港の見える丘公園など近隣の公園へ散歩しています。
ワンフロアの園の特徴を活かし、職員間の連携を図り、全職員がお子様一人一人の発達に向き合い、毎日健やかな成長を願って、保育を行っています。
横浜中華街に近い立地から、利用者やその家族の生活習慣や文化は多様性に富み、地域性を取り入れた行事を楽しむなどの取り組みが行われています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2024年4月12日（契約日） ～ 2025年2月26日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（平成26、令和元年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

特に評価の高い点

【園の入居環境を有効に活用して目指す保育の実現に着実に向かうことができている】本園は元町商店街に近い中華街の端にあり、企業やバレエ学校等も入居する大きな通りに面したビルの2階にあるが、特徴としてはすべての保育室が1フロア内に

ありしかも仕切りがないという点である。園長は職員の子どもたちに関する情報の共有が、小さな園としては最も大切であると考えており、すべての保育室が見通せる同じフロア内にあることで子どもたちの成長を把握することができる環境は、目指す保育の実現には非常に効果的であると言える。子どもたちは、この同じフロア内で自身よりも年長の子どもたちを見ることで憧れを持ち、自ら主体的に成長していくための最も大きな動機を持つことができている、保育者もこれを有効に活用することができる。ビルオーナーにも理解を得て1階に園庭ほどではないが子どもたちの遊び場を屋外にも設置できているなど、ビル環境をできるかぎり有効に活用することができる。

【園長と主任の関係性が良好で、園として目指す保育の実現に向けて大きな要因となっている】園長は、運営主体が変わった8年前から本園にて運営管理者として従事している。前運営会社の方針と比較する保護者からの声や反応に対して多少の戸惑いを覚えながらも、子どもの主体性や自立を育む日々のひたむきな保育実践により、本園においては少しずつ保護者からの理解や信頼を獲得できている。また、現場の責任者でもある主任は新卒採用時から本園に配属されており、これまで着実に経験を積み重ねている存在でもある。頼もしくもあるその姿と、運営全般に対する意識の高さや責任感の強さに対して園長も厚く信頼を寄せており、その両者の関係性も非常に良好である。そのリーダー同士が信頼し合う姿や連携の良さは、心理的安全性の高い職場づくりの土台となっている。

【地域性を取り入れた行事を通して地域交流を楽しんでいる。安全に配慮し子どもとともに楽しみこだわりのある食育を進めている】日本の有名な観光地である横浜中華街が近くにあり、中国の方の利用者も多い。生活習慣や文化の違いに配慮し日本の良き文化と中国の伝承行事等を取り入れ地域ならではの保育を行っている。食材は国産にこだわり素材の味を生かし安心安全な調理を心がけている。ビル内の保育園という限られた環境を活用し、ベランダには子どもと季節に合わせた野菜を育て、乳児からクッキングを行い野菜に興味関心や食べる意欲が持てるよう活動を行っている。3、4、5歳児は配膳を子どもが行い食べる量を考えて伝えるなど、様々な経験を通して子どもの健康と食べる意欲を豊かにした取り組みとなっている。全体計画に地域交流の活動を多く取り入れている点や保育計画に食育計画を盛り込み活動が豊かに行われている点は高く評価される。

今後期待される点

【本園は入居しているビルの環境を有効に活用できているが、今後はこの環境をより有効に子どもたちの成長につなげてほしい】本園では、1フロアの中に緩やかに区切られた歳児別クラスが連続して配置されている。この空間的環境の特長は、それぞれのクラスの連続性である。そこで、こうした環境をさらに生かして生活の主要な場面（着替えや食事など）で子どもたちが他クラスをもっと見合えるようにする工夫を様々な場面で試みてはどうだろうか。例えば3歳児の着替えや支度のシーンを日常的に2歳児が横にいて見ているような形がとれば、2歳児の行動にはきっと変化があるはずだ。空間的な環境の特長を生かし、子どもたちの「見て、真似て、真似される」関係性が増えていくことを期待したい。

【職員の言語化を進めることで保護者との信頼関係構築のさらなる充実につなげてほしい】本園では、園長や主任が意識的かつ意図的に目指す保育を実現するための「言語化」を進めてはいるが、各職員レベルではまだ日々の保育に追われているため自らの保育を言葉で保護者に説明できていないことが最大の課題かもしれない。園としての理念や中長期計画が策定されており、今後はこれを繰り返し職員に説明するだけでなく、保育の現場ではこれに基づいた判断が日々なされるようにならなければなら

ない。これから本園が保護者から信頼されることになるかどうかは、ここにかかっているといっても良いだろう。そのためには、園長や主任の保育説明ができる論理武装は不可欠となってくるため、新しい保育理解と情報収集が不断に続けられなければならない。これは、法人側の問題でもあり、各園長や主任への保育の柱をきちんと研修する機会提供も必要だろう。

【園長と主任の関係性は良好だが、今後は職員の成長をさらに促すために職員の自主性を形にすることで意識向上に努めてほしい】丸7年の歳月を共にする園長と主任の関係性は非常に良好であり、温厚な二人の性格とその関係性を基盤にして職員が安心して業務に集中できる環境がつけられている。また、園が目指す保育の実現に繋がるような職員からの多様な発想や具体的な取り組みも少しずつ現れ始めている。園の保育を現状よりも発展・充実させていくためには、職員のさらなる成長は必要不可欠である。園長は職員一人ひとりの声を丁寧に聴き、自主性を促したり権限移譲も適宜行いながら、全体の意識向上や現場主導の業務改善に繋がるようなマネジメントにもより一層注力していくことを期待する。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回の受審は、前回受審時よりも更に深い内容になりました。その理由は、特に今後に向けての園の課題をより詳細に言語化していただいたことです。この内容は、本園の現状や課題が明確で、職員間で共通理解をしていくにあたっての基となるものであり、良い園を目指していくための指標となっています。職員と園運営や園の保育について話し合うにあたり、互いに理解を深めることができる資料にもなりました。これから職員とともに項目ごとに確認していき、意味のある根拠に基づいた、福祉の保育提供を全職員で行っていきたいと思います。

保護者の方々からの貴重なご意見などは、職員の意識改革を促し一緒に改善していきます。ご協力頂きました皆様、ありがとうございました。

そして、第三者評価機関の株式会社評価基準研究所の皆様、丁寧に関わってくださり、第三者評価を行って頂きましたこと、感謝いたします。

今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

木下の保育園山下町 園長 難波江美智代

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり